

わが子どもと算数

北海道算数数学教育会
小学校部会 札幌支部
平成18(2006)年6月15日発行

No. 129

新しい研究の年度を迎えて

北数教札幌支部支部長
札幌市立幌西小学校長

鈴木富士雄

昨年度、OECDの学習到達度調査と国際数学・理科教育調査の2つの国際調査の結果の公表により、日本の子どもたちの学力に危険信号が灯ったという報道がなされた。とくに、この国際比較は、日本の子どもの算数・数学における興味・関心、動機付けなどが、平均より著しく低い傾向にあることを指摘している。

一方、国のレベルでは、これらの指摘を受けて、現行の学習指導要領の見直しも検討され、算数科の指導内容を前の指導要領の内容に近いものに戻すという動きも出てきている。

また、日数教も、中央教育審議会 鳥居泰彦会長に、「算数・数学科の学習指導要領の改訂についての要望」を提出した。(詳細、日数教HP)

その中で、数学的な考え方、とくに、「発展的な考え、統合的な考え」の目標を明記すること、「算数的活動の楽しさ」を今後も強調すること、内容領域と方法領域(「算数的活動」、「数学的な表現」、「数学的なコミュニケーション」など)を設けることなどを要望している。

さらには、内容にかかわる事項として、例えば、数と計算領域では、数と計算を活用する力を育成するために習熟すべき計算と活用範囲を広げる計算とを区別する、小数や分数に親しませるように早い時期から指導する、数学的な表現力を育成するために等号とともに不等号も扱う、「数の意味、計算の意味を理解すること」「計算の仕方を考えること」「数に対する感覚を豊かなものにすること」を継続して強調することなどを要望している。

同様に、他の領域についても言及しているが、算数・数学科の授業時数の増加についての要望も提出している。

これらの要望の根拠は、日数教のこれまでの実証的な研究成果であり、この内容を見る限り、私たち北数教の研究の成果と同様であると考えることができる。

支部の新しい研究も、そして実践も、こうした教育の広い動きを視野に入れ、子どもの未来に求められる教育の姿をしっかりと見据えたものにしていきたいと思う。

本年度の札幌支部の研究活動が開始した。

これまでの支部研究の重点、一人一人の子どもに「問題解決力を育てる」ことを課題とした研究を継続・発展させたい。「自分で考えた解決方法を持ち寄り、比較・検討する活動を通してよりよい解決へと高めていく学習」(冬の学習会、宮城教育大学、田端輝彦氏)を通して、子どもの「課題」の変化や知的変容を求める過程を授業実践の課題としたい。

本年度は独自の支部大会を各学年単位の分散会場で開催する。また、北数教の全道大会は、「小樽・余市大会」である。この両研究大会で、支部研究の成果を発表したり、会員個々の日常の実践研究の成果を論議したりしたい。この成果が、札幌や全道の算数教育の充実に貢献し、子どもたちの確かな学力向上に反映されることを期待したい。